

第6回林木育種技術戦略委員会議事要旨

1. 日時：平成28年12月19日（月）13：30～15：30

2. 場所：東京国際フォーラム

3. 議題：エリートツリーと今後の林木育種の推進
その他

4. 出席者からの主な発言内容

・九州育種基本区内で指定されている特定母樹と在来系統との関係を明らかにすることで、そのことが在来系統を利用している多くのユーザーに、特定母樹系統を活用頂けるきっかけになり育種種苗率が向上できるのではないかと考えている。

・九州育種基本区内で指定されている特定母樹に早生系統が多く入っているのではないかと考えているので、検定等進めて欲しい。

・毎年スギで 5,000ha 以上が造林されているが、エリートツリーや特定母樹が早く届くように普及を進めていただきたい。

・何世代まで進めてどのくらいの改良効果を目指すのか、何世代まで進めると弊害（近交弱勢）が起こる可能性があるのか、今後検討して欲しい。

・短期間で世代を回していくとなると、今までの評価システムで検定することは難しくなるので、ゲノム育種等の活用も考えていく必要があると考える。また長伐期林業にも応えられる育種集団も考慮してほしい。

・今後、ユーザーの多様なニーズを取り入れ、それに応えていくような育種の仕組みを考えてほしい。

・今回提案のあった育種集団の単位を従来のように育種区毎に行うのか、それともいくつかを合体させて育種集団を構成するのかを検証しながら進めていって頂きたい。

・今後の林木育種のあり方については主に本流のスギ・ヒノキ等を対象としているが、林木育種センターとして細々ながらも広葉樹などについても取り組んでいっていただきたい。

・議題「エリートツリーと今後の林木育種の推進」で、次世代化を進めて行く中で、①育種集団と生産集団を分離すること、②育種集団はいくつかの分集団に分けて次世代化を進めて行くこと、③育種集団は基本的にエリートツリーで構成するものの、多様性や改良効果を確保できない場合は、外部からエリ

ートツリー以外でも優良な個体を育種集団に導入することができること、④難着花性樹種など次世代化が難しい樹種では、ローリングフロント育種を導入し、単位時間あたりの改良効果を確保することを検討すること、等について提案がなされ、全委員に了承をいただいた。